

# 照月台遺跡

## 発掘調査報告書

—後期旧石器時代前半期の遺跡—



# 照月台遺跡

## 発掘調査報告書

—後期旧石器時代前半期の遺跡—

2002

長野県信濃町教育委員会

# 例　　言

1. 本書は平成9年度の照月台遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は、三栄興業株式会社（代表取締役 石田幸子）の委託を受けた信濃町教育委員会が、平成9年11月7日から平成10年3月31日かけて実施した。整理作業は平成9年12月から平成14年3月にかけておこなった。
3. 本書は調査によって確認された遺物とその出土状況を中心に、基礎資料を提示することに重点をおいた。
4. 本書作成に至る分担は、下記のとおりである。  
遺物・記録整理・石器実測・土器拓本・図版作成  
佐藤ユミ子・今井美枝子・万場弘子・長谷川悦子・  
横山真理子・川端結花・中村由克  
執筆および編集 中村由克
5. 調査によって得られた諸資料は、野尻湖ナウマンゾウ博物館で保管している。出土資料の注記番号は、次のとおりである。

照月台遺跡 97SY

# 目　　次

## 例言・目次

I 調査の経過	1
1. 調査にいたる経過	1
2. 調査体制	1
3. 調査経過	2
II 発掘地の状況と調査の概要	2
1. 発掘地の状況	2
2. 発掘地の地形と地質	2
3. 遺構・遺物の出土状況	3
III 旧石器時代の石器	3
1. 上Ⅱ上部～上Ⅱ最下部の出土遺物	3
2. 黒色帶の出土遺物	4
VI 照月台遺跡の成果	5
文献	6
図表	7
図版	21
英文要旨	27
報告書抄録	28

# I 調査の経過

## 1 調査にいたる経過

平成9年度、信濃町大字野尻宇上ノ原の国道18号線ぞいの駐車場敷地内にコンビニエンスストアの建設が計画された。三栄興業株式会社（代表取締役 石田幸子）より信濃町教育委員会に照月台遺跡内の建設事業について相談があり、両者による遺跡保護協議をおこなった。発掘調査は、平成9年度に信濃町教育委員会が委託を受けておこなうという、方針が確認された。

平成9年9月26日付で三栄興業株式会社より文化庁長官あてに、埋蔵文化財発掘調査の申請がされた。信濃町教育委員会では、旧石器時代の遺構・遺物の出土が予想されたので、発掘調査を行う必要がある旨の意見書をつけて長野県教育委員会に送達した。

平成9年11月4日付で三栄興業株式会社と信濃町が平成9年度埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結した。

信濃町教育委員会では、ただちに発掘調査の準備に着手し、11月7日には本体建物部分の発掘調査を開始した。同年11月24日には、本体部分の発掘調査を終了したが、新たに道路を隔てた北側の用地における開発計画ができ、遺跡の試掘調査を委託された。試掘調査は、11月25日に着手し、12月5日にはすべての現場作業を終了した。

平成9年度は、信濃町においては高速道の後、周辺道路網の整備などによる公共事業や民間事業があいつぎ、町教育委員会が担当する埋蔵文化財の発掘調査はひきつき膨大な量を抱えていた時期であった。このため、信濃町教育委員会では長野県教育委員会文化課とも相談し、現地における埋蔵文化財調査を最優先し、整理事業を次年度以降に送る方針をとり、なんとか照月台遺跡をはじめとする遺跡調査を遂行することができた。

整理作業は、平成9年度からはじめられたが、本格的に着手したのは平成13年度である。

野尻湖の位置する長野県上水内郡信濃町には、40か所の旧石器時代・縄文時代草創期の遺跡が確認されており、中部地方でも有数の遺跡密集地として特に注目を集めている。平成9年（1997）10月、この地域に上信越自動車道が通過することになり、平成2年（1990）以降、信濃町では緊急発掘が多くおこなわれるようになった。

とりわけ、野尻地区と柏原地区の境界にあたる貫ノ木には、信濃町インターチェンジ（IC）が設けられ、長野県埋蔵文化財センターにより大規模な発掘調査がおこなわれた。また、信濃町ICから新潟県境にかけての区間は、国道18号線野尻バイパス線の改良工事が実施され、長野県埋蔵文化財センターと信濃町教育委員会によって発掘調査がおこなわれた。さらに、インターから長野側の出口にあたる上ノ原をはじめ町内各所で、取り付け道などの関連事業が実施され、主に信濃町教育委員会による発掘調査がおこなわれている。

## 2 調査体制

照月台遺跡の発掘調査は、信濃町教育委員会の直営事業として実施し、組織は以下のとおりである。

調査主体者	信濃町教育委員会
教育長	小林一盛
事務局	総務教育課 課長 北村敦博 係長 北村恭一 担当 池田昭博
調査担当者	中村由克
担当職員	池田昭博
調査参加者	麻田紀子、池田かよ子、石田和子、大久保孝子、荻原敬藏、落合春人、小日向キヨ子、片山トヨ、金子シズイ、金子房江、木下浩一、木下紹榮、小林正義、勒村幸男、佐藤ユキ子、佐藤儀信、渋沢ユキ子、高橋是清、高野孝司、竹内良子、竹内ゆき子、東賀、平塚節子、深沢政雄、巻柄恵子、松岡さとみ、松木由美子、吉川栄子、横山真理子、万場弘美、今井美枝子、佐藤ユミ子、長谷川悦子
整理作業・報告書作成（平成9年～13年度）	
調査主体者	信濃町教育委員会
教育長	小林一盛（～11年1月） 小林豊雄（11年2月～）
事務局	総務教育課 課長 北村敦博（～12年3月）

佐藤謙一郎（12年4月～）  
係長 北村恭一（～13年3月）  
丸山佳代子（13年4月～）  
担当 池田昭博（～12年3月）  
文化財担当者 渡辺哲也（12年4月～）  
調査担当者 中村由克  
報告書作成では、次の方々より多大なるご指導をいた  
だいた（敬称略）。

大竹憲昭、谷和隆、堤隆、須藤隆司、識笠昭、識笠  
明子、鶴田典昭、中島英子、山崎まゆみ、市川桂子

### 3 調査経過

平成9年度  
11月7日 照月台遺跡の店舗本体部分の試掘調査に着手。  
11月10日 表土剥ぎ開始、発掘作業開始。  
11月14日 人員を増やして、発掘作業をすすめる。  
11月25日 店舗敷地北側の宅地造成予定地の試掘調査に着手。針ノ木遺跡、宮ノ腰遺跡に一部人員を移動して、調査規模を縮小する。  
11月26日 店舗敷地の発掘調査を終了。  
11月29日 店舗駐車場の試掘調査。  
12月3日 大雪のため、現場作業は中止。  
12月4日 除雪作業、発掘再開。  
12月5日 造成予定地の試掘調査終了。現場撤収。  
12月6日 調査地の地質記載。

## II 発掘地の状況と調査の概要

### 1 発掘地の状況

照月台遺跡は、野尻湖西方の信濃町野尻の南部・滝沢・上ノ原に所在し、国道18号線にそったなだらかな丘陵の頂部にひろがる遺跡である。国道沿いの丘陵の最高地点となっている貫ノ木遺跡から、北東に連続する丘陵とその斜面に遺跡は分布し、北国街道の野尻一里塚付近で北の仲町遺跡に連続する。

この付近は上信越自動車道の信濃町インターと国道18号線に近いため、開発が集中していたので、遺跡全体を県埋文センターの遺跡座標系に準じた200m、40m単位で区画設定し、さらに5mごとにグリッドを設けた。

今回の調査地点は国道18号線ぞいの駐車場とされたいた平坦地で、野尻仲町からつづく平坦地の南端部に位置する。すぐ南から北東方向に沢が流れ、この沢の両側が遺跡の中心部となっている。遺跡の南側には、神山の急傾斜地が位置し、国道西側の微高地と山地の間に挟まれた調査地付近は、丘陵の中ではやや湿潤な環境の場所となっている。

### 2 発掘地の地形と地質（図1～3、図版2-2）

発掘地は北東～西南に走る国道18号線のすぐ東側にあたり、標高約691mである。この付近は仲町遺跡が立地する丘陵の南端部の緩辺部にある。

調査地付近では、後期更新世の池尻川岩屑なだれ堆積物とそれを覆う水成の貫ノ木層が堆積しており、その上位を風成のローム層がおおっている。発掘地では、中部野尻ローム層以上の、風化火山灰層が確認された。発掘地では、下位より上部野尻ローム層Ⅰの褐色ローム層30cm+、17cmの黒色帶、20cmの上部野尻ローム層Ⅱ最下部（上Ⅱ最下部）、25cmの上部野尻ローム層Ⅱ黄褐色ローム層（上Ⅱ下部～上部）、18cmの上部野尻ローム層Ⅱ最上部（モヤ）などの層序がみられ、その上の柏原黑色火山灰は削平されていて、埋土20～27cmが観察された。本遺跡では、上Ⅱ最下部が色調の違いから、上下に2分できることが確認された。カⅠ火山灰（姶良一丹沢火山灰）の降灰層は、上Ⅱ最下部の上部と推定される。

### 3 遺構・遺物の出土状況（表4、5、図4-9、14）

店舗用地では、中央よりやや国道に近い位置より、長方形の平面形の2基の落とし穴が検出された。1号土坑は1RH5グリッド、NNW-SSE方向で、90cm×50cm、確認面からの深さ43cmであり、底部中央に深さ22cmの小ビットがある。2号土坑は1SA5グリッド、N-S方向で、96cm×45cm、確認面からの深さ64cmであり、底部中央に深さ36cmの小ビットがある。縄文時代のものと思われるが、遺跡内では縄文期の遺物は出土しなかった。

旧石器時代の遺物は、全部で614点出土したが、石器が大半で576点、礫36点であった。店舗用地は国道側が低い地形をしており、遺物は中央より国道側に集中して出土していた。上II最下部から上II上部にかけては、A

4からH4東部を中心に集中する傾向があり、上II最下部の上部～上II下部の下底付近に最も多くの遺物が出土した。分布、黒曜石を主体とする使用石材の状況、および石器群の内容から、本来、これらは同一石器群に属するもので、上II最下部の上部～上II下部の下底付近を中心には包含された遺物が、その後拡散を受け、上II上部まで移動したものと推定される。

一方、黒色帶の遺物はH4を中心に店舗用地の北半分のほぼ全域に広がっており、また黒曜石が少なくチャートなどの石材が多いことなど、上層とは状況が異なっており、別の石器群であると推定される。

造成地試掘グリッドのH3～B6では、南東よりも多くの遺物が分布し、また駐車場用地の国道沿いの試掘4か所には、若干の遺物が確認された。

## III 旧石器時代の石器

（表2、3、図10-13、図版4-6）

### 1 上II上部～上II最下部の出土遺物 (図10-13)

これらの地層の遺物は、本来、1つの石器群に属し、上位の地層にまで再移動したものであると推定されるので、これらの標準のものをまとめて、また試掘地のものも含めて記述する。なお、これら上層の石器群は大半のものが黒曜石製であるので、石材の記述をしたもの以外は黒曜石である。

#### ナイフ形石器

13は、細く分厚い石刃の打面部を基部として、末端側を先端とし、基部の両側縁と先端の左側縁に刃つぶし加工が施された基部加工のナイフ形石器である。基部に打面を残している。加工部位は杉久保型ナイフの範疇に入るものであるが、素材の石刃の形状、基部に打面を残す形態などからは、狭義の典型的な「杉久保型」とは異なる、それより古いものと思われる。

14は、石刃の打面部の側縁に刃つぶし加工が施されたナイフ形石器の一部である。打面部は破損後、剥離されていて残ってなく、本来の形状は不明である。

15は、縦長剥片の打面部の両側縁に刃つぶし加工を施した、2側縁加工のナイフ形石器である。基部に打面を残している。先端側は破損した後、搔器に転用されている。

る。

#### 台形石器

16は、剥片の主要剥離面の2側縁に面的な加工で基部をつくっている台形石器で、谷ほか編（2000）のI c類に分類される。

1は、幅広の剥片を横に用い、打面部の折り取りと微細な剥離で側縁を仕上げていて、末端側は未加工である。刃部は斜めになっており、II c類に分類される。

22は、頁岩製の縦長剥片を素材として、1側縁に沿って浅い平坦な剥離がおこなわれていて、他縁は自然面で構成される台形石器である。

64は、剥片の末端を刃部とする台形石器で、側縁から反方向の面的な加工が主剥離面に施されて、基部がつくられている。刃部は斜めになり、背面側に小剥離痕が生じている。II a類に分類される。

67は、暗赤褐色と灰青色の斑状のチャート製の貝殻状剥片を素材として、側縁を刃部として、打面部を除去して、基部としている台形石器である。I a類に分類される。

#### 貝殻状刃器

2は、貝殻状剥片を素材として、側縁の一部にごく浅い面的な加工が施されている。

3は、三角形の小剥片の1側縁に不規則な微細剥離をおこない、他辺の一部にも小さな面的な加工をおこなっている。

10は、横長の貝殻状剥片を素材として、斜めの側縁を刃部として、他辺の背面側には角をおとす加工が施されている。

17は、チャート製の小剥片の末端部を刃部として、基部側の側縁の一部に微細な加工が入れられている。

18は、三角形状の剥片の打面部を基部として、基部に微細な剥離がおこなわれている。側縁の微細剥離痕は、ガジリと判断される。

19は、幅広剥片を素材として、基部、側縁および刃部に部分的に微細な剥離がおこなわれている。

20は、分厚い断面三角形の小剥片を素材として、側縁に沿って連続して微細な加工がおこなわれている。

21は、小剥片の打面部に連続的に微細な加工がおこなわれている。

#### 搔器

4、5、23、24、26は、厚みをもつ貝殻状剥片もしくは寸づまりの縦長剥片を素材として、円形、梢円形、拇指状を呈する搔器である。正方向の加工を周縁の大部分ないし末端に施して、丸い刃部をつくっている。

6は、斜め長の貝殻状剥片を素材として、側縁に正方向の加工を施して丸い刃部をつくっている搔器である。27は、同様な搔器の刃部付近の破片である。

7は、無斑品質安山岩製の厚い貝殻状剥片を素材として、末端に正方向の浅い加工を施して、梢円形の刃部をつくっている搔器である。

25、28~31は、厚い縦長剥片を素材として、末端に正方向の加工を施し、丸い刃部をもつ搔器である。25以外は刃部のみの欠損品である。

68は、厚い寸詰まりの縦長剥片を素材として、末端に刃部がつくられた搔器である。

41は、無斑品質安山岩製の都厚い貝殻状剥片の末端に、反方向に弧状のやや粗い刃部をもつ搔器である。

#### 削器

8、32、34、35は、縦長剥片を素材として、側縁にそって正方向の加工を施して、弧状の刃部をつくっている削器である。32の刃部は、直線状である。

38~40は、厚く小さな縦長剥片を素材として、側縁にそって直線的な(39)、やや弧状の(38)、やや湾入した

(40)刃部をもつ削器である。

70は、平坦打面をもつ無斑品質安山岩製の縦長剥片を素材として、側縁にそって浅い不規則な面的剥離で加工が施された削器である。刃部は鋸歯状を呈する。

33、37は、石刃の側縁に浅い加工で刃部がつくられた削器である。9は、縦長剥片の側縁にそって、平坦な剥離の加工が施されて、鋭い刃部をもつ削器である。

44は、無斑品質安山岩製の縦長剥片の側縁に不連続な浅い剥離が入れられた削器である。

#### 彫器

36は、貝殻状剥片を素材として、末端に粗い加工を施し、その一端を打面としてファシットを入れた彫器である。両側縁にも刃つぶし状の加工が施されている。

#### クサビ形石器

65は、上下両端から全面におよぶ剥離面で構成されるクサビ形石器の破損品である。

#### 石刃

42、43、47~51は、やや幅広な石刃である。47以外はすべて同一方向の剥離面で構成されている。打面は42が調整打面であるが、47、48、50は平坦打面である。

#### 微細剥離痕のある剥片

66は、小さな縦長剥片の直線的な側縁に微細剥離痕が連続的についている剥片である。69は、玉髓製の斜め長の縦長剥片で、末端を中心に微細剥離痕がついている剥片である。

#### 横長剥片

71、72は、小形の横長剥片である。打点をほとんど移動させずに、連続的に2枚以上の剥片を剥がしている。71は、底面を有する。どちらも非調整打面である。

#### 石核

46、12は、黒曜石製の小形の石核である。11は、チャート製の石核で、横位に連続的に小剥片を剥がしている。

45は、無斑品質安山岩製の石核で、一辺から交互に貝殻状剥片を剥がしている。

73は、71、72とほぼ同形の小さな横長剥片を剥離した石核である。非調整打面である。74は、小さな貝殻状剥片ないし横長剥片を剥がした石核である。73、74はいずれも打面をひんぱんに転移している。

## 2 黒色帶の出土遺物（図12、13）

### ナイフ形石器

52は、チャート製の小形の横長剥片を素材として、打面側に対向剥離で刃つぶし加工がおこなわれている。

53は、チャート製の横長剥片を素材として、末端部に連続した刃つぶし加工を施すことにより基部をつくったナイフ形石器で、先端部は節理面で破損している。打面側の主剥離面には、平坦な2回の剥離をおこない、バルブを除去している。

### 台形石器

54は、玉髓製の幅広剥片を素材として、側縁を刃部とし、打面側の表裏両面に、末端には正方向の加工が施された台形石器である。I b類に分類される。

### 彫器

55は、チャート製の幅広剥片を素材として、斜めになっただ面の端部からファシットが入れられた彫器である。

56は、チャート製の厚い縦長剥片を素材として、末端側の自然面に正反方向の加工を加えて、その一端よりファシットが入れられた彫器である。背面側にみられる大きな剥離面は、剥片剥離時に主剥離面から連続して同時に削れた面であり、この面とファシットにより65~70°の鋭い角を形成している。主剥離面の側縁には浅く面的な小剥離が施されて、形状が平らに整えられている。

### 局部磨製石斧および剥片

57は、蛇紋岩製の局部磨製石斧の刃部破片である。縦辺からの剥離で割れたものである。

75は、蛇紋岩製の剥片である。背面右下の剥離面には、微弱な磨面が認められることから、局部磨製石斧の調整剥片と思われる。

### 剥片

58は、黒曜石製の縦長剥片の打面側破片である。調整打面がみられる。

### 微細剥離痕のある剥片

76は、黒曜石製の幅広の打面をもつ石刃の基部であり、側縁の表裏両面に面的な微細剥離痕が認められる。

### 石核

59は、チャート製の小形の横長剥片を剥がした石核である。打面は自然面で、未調整である。素材礫は、4~5cm以上の亜円礫で、自然面はなめらかな面が多く、角の部分には衝撃痕がかなり削られた状態で残存している。青灰色チャートで、鏡下では100~200μmほどの放散虫化石が多数確認され、熱変成をほとんど受けなく、比較的節理の少ない良質のチャート石材である。

61は、小形の貝殻状剥片を交互に剥がした暗赤褐色チャート製の石核である。素材礫は、6~7cm以上の亜円礫で、自然面はなめらかな面と衝撃痕・打痕が残る面が半々で構成され、衝撃痕はかなり削れた状態で残存している。節理面が多く入るため、剥離面はややスムーズでない。鏡下では50~100μmの放散虫化石が少し確認される。

62は、黒灰色のスジの多く入った灰白色チャート製の厚い幅広剥片を素材とし、小形の貝殻状剥片を剥がした石核である。2点が接合している。素材礫は、6cmほどで、礫の形状はよくわからないが、わずかになめらかな面と削れた衝撃痕が残存し、自然面の形状は59、61にほぼ近いと推定される。節理が多く入り、再結晶化が進んだチャートなので、それほどいい石材ではないものである。

60は、横長剥片~貝殻状剥片を剥がした扁平な剥片素材の頁岩製の石核である。

77は、小さな貝殻状剥片を剥がした黒曜石製の石核である。打点を横に移動して連続的に剥片剥離をおこなっている。打面は非調整である。

### 敲石

63は、灰緑色凝灰岩の円礫を素材とした敲石である。長さ6.7cmのやや扁平で細長い形状で、上下端と側縁に打痕が認められ、側縁の一部には剥離面が認められる。

## IV 照月台遺跡の成果

照月台遺跡の発掘調査では、従来は一括されていた上Ⅱ最下部が色調の違いから上下に2分されることが明らかになった。この層位的見解は、その後、大久保南遺跡

でも確認された（中村編1999）。上Ⅱ最下部層準は、野尻湖遺跡群では比較的多くの遺跡で文化層が確認されており、出土する石器群にも各種のものが知られており、

それらの細分が課題となっていた。ヌカⅠ火山灰層（始良一丹沢火山灰、AT）は、肉眼的には細分された上層の方に包含されると観察される。上Ⅱ最下部は、長野県埋蔵文化財センター層位（谷ほか編2000など）のV a層にあたるので、今後、この層準の遺跡、石器群の層位的整理をする際に重要な知見となるものである。

今回の調査では、黒色帯を中心とする下層の石器群と上Ⅱ最下部の上部～上Ⅱ下部の下底付近を中心とする上層の石器群が得られた。下層はチャートを主体とする台形石器、局部磨製石斧などを中心とする後期旧石器時代のはじめごろのものである。上層は黒曜石を主体とし、基部加工のナイフ形石器、台形石器、貝殻状剥片、円形

の刃部をもつ搔器などを中心とする石器群である。後期旧石器時代の前半期の中では比較的後出のものと考えられる。

すぐ北側の国道バイパスでも、多くの遺構、石器群が検出されていて、貫ノ木遺跡から仲町遺跡まで、ほとんど間をあけずに後期旧石器時代の各時期のブロックや遺構が連続的・重複的に分布している状況が明らかになった（大竹編2000など）。この状況は、さらに南側の上ノ原遺跡、東裏遺跡までつづいており、このように旧石器時代の遺跡が集中する特殊な地域として注目されるが、なぜこのような状況が野尻湖周辺に成立したのかは、まだ解明されていない。

## 引用文献

- 大竹憲昭編（2000）貫ノ木遺跡・西洞A遺跡、旧石器時代、上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書、15、長野県埋蔵文化財センター。
- 谷 和隆編（2000）日向林B遺跡・日向林A遺跡・七ツ栗遺跡・大平B遺跡、旧石器時代、上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書、15、長野県埋蔵文化財センター。
- 中村由克編（1999）大久保南遺跡（4次）ほか発掘調査報告書、後期旧石器時代前半の遺跡、信濃町教育委員会、53P。

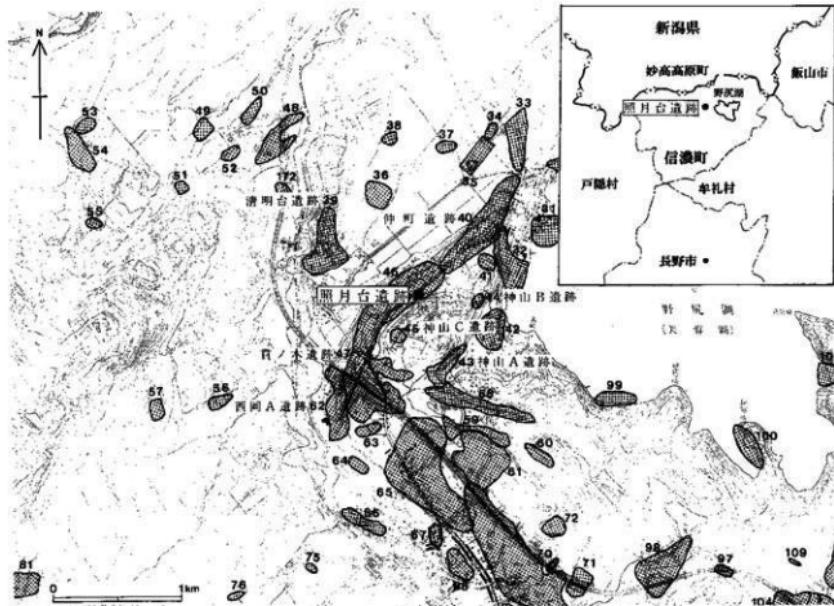


図1 照月台遺跡の位置



図2 照月台遺跡の発掘位置

表1 平成9年度 信濃町内の遺跡の発掘調査一覧

No	遺跡名	原因	遺跡の時代	面積	調査期間	出土点数	備考
1	上ノ原 (7次)	武藏野開拓 町道 大平大久保線	旧石器・縄文	1,300m <sup>2</sup>	9/2~12/1	527点	復いた状態の砾石(黒色系、約3万年前)など。試掘期間は10/19~20まで。 堆积量は10/21~12/1。
2	柴野原A (試掘)	土取り	旧石器・縄文	46m <sup>2</sup>	11/10~11/21	14点	縄文・石器(田石器) 陶片・礫(陶瓦)
3	新ノ木 (試掘)	町造り 柏原水六櫛	縄文・平安	15m <sup>2</sup> (450m <sup>2</sup> )	11/27~11/28	0点	遺跡の中心からはずれる
4	宮ノ原 (試掘)	宅地造成	縄文・平安 中世	25m <sup>2</sup> (1900m <sup>2</sup> )	11/27~12/5	約150点	土師器、須恵器、黑色土器(平安) 特徴焼、古窯跡(中世)
5	立が島	築壇・試掘	田石器	32m <sup>2</sup>	9/6~9/11	0点	未記載
6	上ノ原 (5次)	黒川砂利場 砂利採取場	旧石器・縄文	1,700m <sup>2</sup>	4/8~5/20	774点	尖頭器、スラリバー (田石器時代末ごろ、約1.3万年前)
7	星光山莊	寺跡石垣 ハイブリッジ	縄文・中世	270m <sup>2</sup>	4/14~4/17	3点	遺跡の中心からはずれる。 (中世土器2点が出土)
8	真ノ木 (ハイブリッジ)	寺跡石垣	旧石器	520m <sup>2</sup>	4/21~6/25	583点	石核、鉋片 (上ノ原下部、約2.6万年前)
9	上ノ原 (6次)	南原古墳 ハイブリッジ	旧石器	7.20m <sup>2</sup>	6/21~9/2	595点	馬鹿廢磨石(黒色系) 馬鹿廢磨石(1.4万年前)
10	東ノ木 (後掘)	園道バイパス 防護事業	旧石器・縄文	200m <sup>2</sup>	6/30~8/26	623点	土器片など (上ノ原下部、約2.6万年前)
11	鳳ノ台	民間造作事業 (ヨーロン)	旧石器	170m <sup>2</sup>	11/7~11/24	636点	アイフ形石器と小形の石器 (上ノ原下部、2.3万年前)
12	隅ノ台 (試掘)	民間造作事業	旧石器	50m <sup>2</sup> (700m <sup>2</sup> )	11/25~12/5	121点	大形の石核、砾石 (田石器時代、3万年前)
13	秋野原A	広域農道	旧石器・縄文	2,800m <sup>2</sup>	4/10~11/21	1,047点	未記載
14	高の山	寺跡石油 ハイブリッジ	旧石器	約115m <sup>2</sup>	5/6~6/27	21点	鉋片など
15	東裏	寺跡石油 ハイブリッジ	旧石器・縄文	約44m <sup>2</sup>	5/19~6/5	32点	鉋片、石核(旧石器時代) 縄文早期、前期の土器
16	東裏	柏原上町道 近世現代	旧石器	約460m <sup>2</sup>	7/4~11/6	2,430点	移入保有、窓戸内系の尖頭器 石器等出土。(1.5万年前)
17	安里駅	一茶田毛 駐車場	近世現代	約460m <sup>2</sup>	8/29~11/7	748点	平安時代の墓穴式住居1軒検出

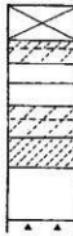
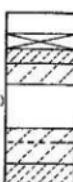
IS-G5  
西壁面下IS-A4+4.5m東  
東壁面下IS-B53m東  
東壁面上

図3 照月台遺跡の地質層序(単位cm)

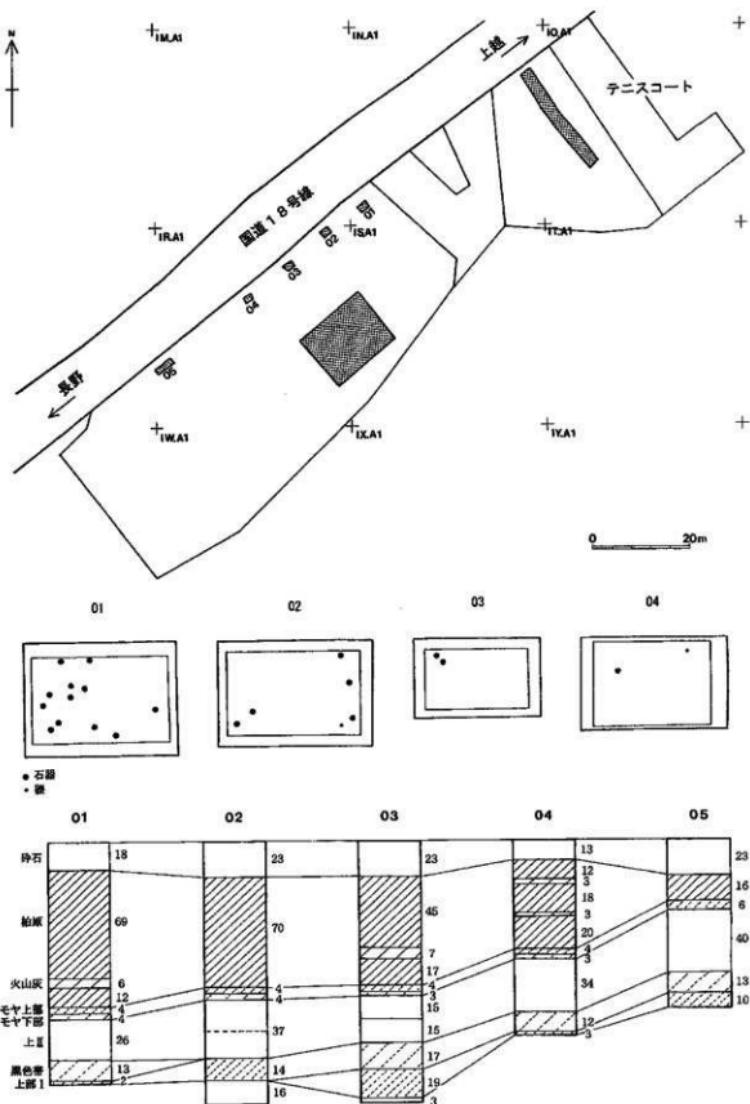


図4 照月台遺跡店舗用地の試掘調査位置、平面図、地質柱状図（単位cm）

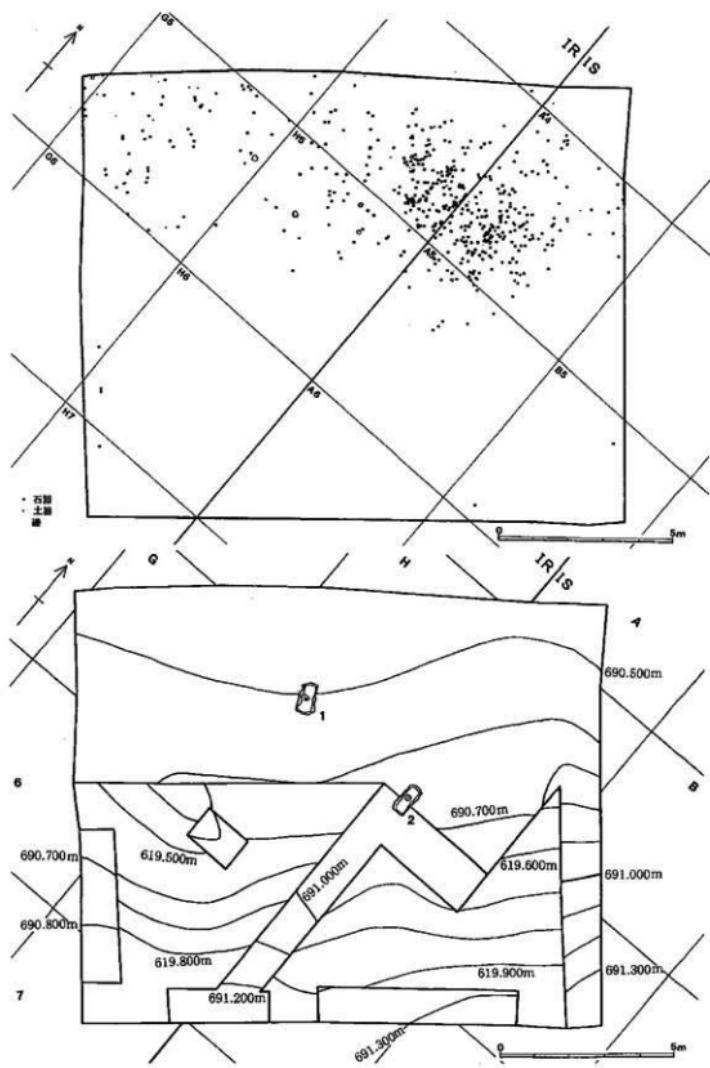


図5 遺物分布図（上）と発掘地の地形（下）

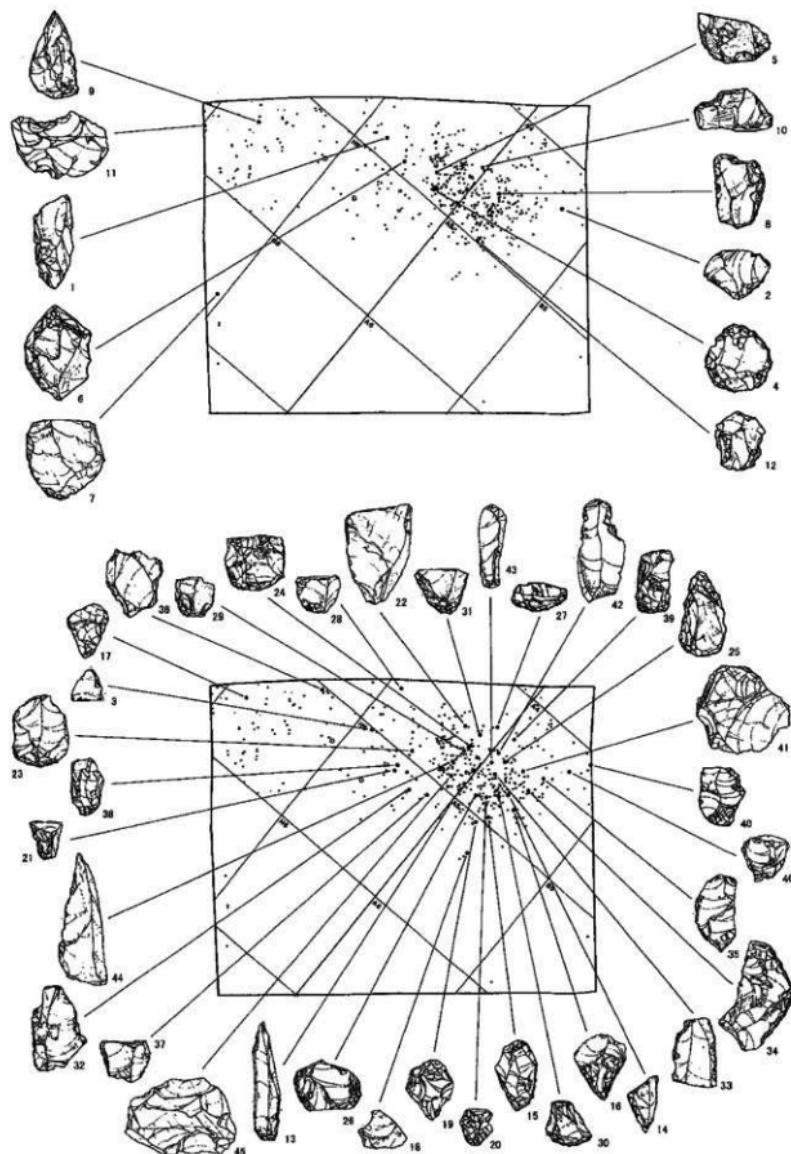


図6 層準別の主な出土遺物1 (上) 上II上部、(下) 上II最下部の上部～上II下部

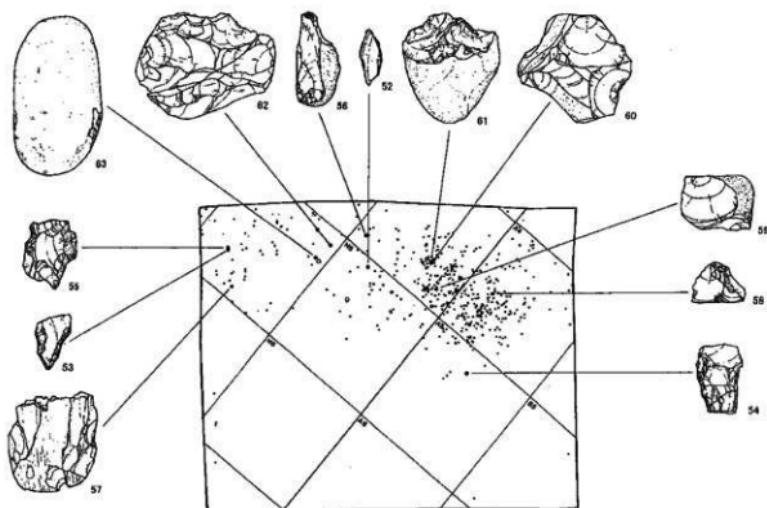
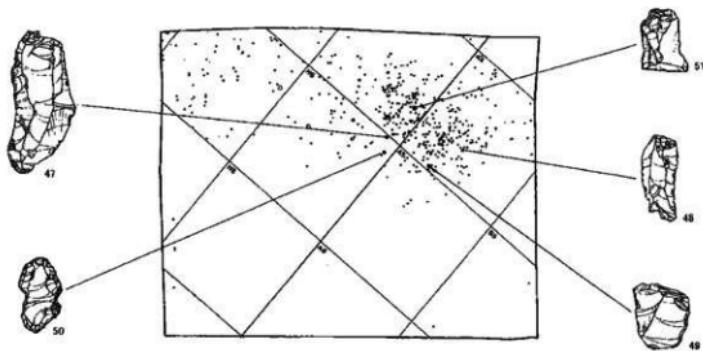


図7 砂堆別の主な出土遺物2 (上) 上II最下部の中部～下部、(下) 黒色帶

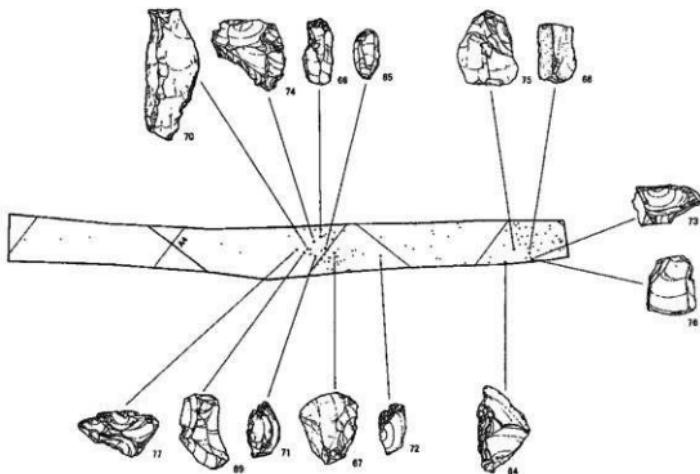


図8 造成予定地の試掘調査地の遺物分布

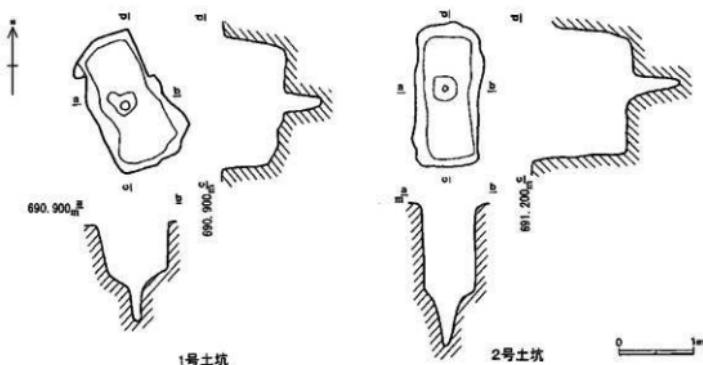


図9 縄文時代の土坑（落とし穴）

表2 照片台跡の出土石器一覧1

No	名称	遺物番号	地層	石材	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
上II上部									
1	台形石器	97SY-IR-H4-39	上II上部	黒曜石	3.8	1.6	0.8	4.6	
2	貝殻状刃器	97SY-IS-A4-31	上II上部	黒曜石	2.0	2.7	0.7	2.5	
3	貝殻状刃器	97SY-IR-H5-1	上II中部	チャート	1.3	1.3	0.3	0.6	
4	搔 器	97SY-IR-H4-34	上II上部	黒曜石	2.8	2.7	0.6	4.5	
5	搔 器	97SY-IR-H4-21	上II上部(下部)	黒曜石	3.2	1.9	0.5	7.6	
6	搔 器	97SY-IR-H4-38	モヤ上部	黒曜石	3.4	3.1	0.8	7.6	
7	搔 器	97SY-IS-H6-1	モヤ上部(下部)	無斑品質安山岩	3.2	3.2	1.4	15.0	
8	削 器	97SY-IS-A4-46	上II上部(下部)	黒曜石	3.1	2.1	0.9	4.4	
9	削 器	97SY-IR-G5-17	上II上部	チャート	3.6	1.9	0.9	5.5	
10	貝殻状刃器	97SY-IR-H4-7	モヤ上部	黒曜石	1.8	3.2	0.5	2.5	
11	石 桿	97SY-IR-G5-31	モヤ上部	チャート	3.8	3.0	1.6	14.0	
12	石 桿	97SY-IS-A4-183	上II上部	黒曜石	2.4	2.0	1.4	5.8	
上層(上II最下部上面～上II下部)									
13	ナイフ形石器	97SY-IR-H4-59	上II最下部上面～上II下部下底	黒曜石	5.9	1.3	0.7	5.3	
14	ナイフ形石器	97SY-IS-A4-112	上II最下部上部	黒曜石	2.1	1.2	0.5	1.2	
15	ナイフ形石器	97SY-IS-A4-151	上II中部	黒曜石	2.9	1.8	0.4	2.3	
16	台形石器	97SY-IS-A4-108	上II最下部上面	黒曜石	2.4	2.2	0.7	3.7	
17	貝殻状刃器	97SY-IR-G5-15	上II下部	チャート	1.8	2.2	0.8	1.8	
18	貝殻状刃器	97SY-IR-A5-16	上II最下部上部	黒曜石	1.6	2.0	0.5	0.9	
19	貝殻状刃器	97SY-IR-A5-5	上II下部下部	黒曜石	1.9	2.3	0.7	2.7	
20	貝殻状刃器	97SY-IS-A4-65	上II下部	黒曜石	1.5	1.3	0.5	0.9	
21	貝殻状刃器	97SY-IR-H5-6	上II最下部上部	黒曜石	1.6	1.3	0.7	1.1	
22	台形石器	97SY-IR-H4-47	上II下部下部	燧灰質頁岩	5.1	3.4	1.2	17.4	
23	搔 器	97SY-IR-H4-37	上II下部(中部)	黒曜石	3.0	2.4	0.7	4.1	
24	搔 器	97SY-IR-H4-53	上II下部下部	黒曜石	2.8	3.2	1.2	12.5	
25	搔 器	97SY-IS-A4-21	上II下部(上部)	黒曜石	3.6	1.9	1.0	3.3	
26	搔 器	97SY-IS-A4-140	上II最下部上面	黒曜石	2.1	2.8	0.6	3.8	
27	搔 器	97SY-IR-H4-43	上II最下部上部	黒曜石	2.3	1.2	0.8	1.8	
28	搔 器	97SY-IR-H4-16	上II下部	黒曜石	1.5	1.8	0.8	2.2	
29	搔 器	97SY-IR-H4-55	上II最下部上面	黒曜石	1.5	1.6	0.8	2.3	
30	搔 器	97SY-IS-A4-165	上II最下部上部	黒曜石	2.1	1.6	1.1	3.2	
31	搔 器	97SY-IR-H4-45	上II下部下部	黒曜石	1.8	2.2	0.5	1.9	
32	削 器	97SY-IR-H5-9	上II下部下底	黒曜石	4.3	2.8	0.7	8.7	
33	削 器	97SY-IS-A4-51	上II中部	黒曜石	2.9	1.8	0.4	2.7	
34	削 器	97SY-IS-A4-103	上II下部下底	黒曜石	5.6	4.0	0.8	13.6	
35	削 器	97SY-IS-A4-80	上II下部下部	黒曜石	3.2	1.8	0.5	3.0	
36	影 器	97SY-IR-G5-1	上II下部下部	黒曜石	2.8	2.4	0.6	4.3	
37	削 器	97SY-IR-H5-10	上II最下部上部	黒曜石	1.7	2.1	0.3	1.0	
38	削 器	97SY-IR-H5-5	上II中部(下部)	黒曜石	2.4	1.4	0.8	2.5	
39	削 器	97SY-IS-A4-16	上II最下部	黒曜石	2.6	1.4	9.2	3.3	
40	削 器	97SY-IS-A4-187	上II最下部上部	黒曜石	2.4	1.9	1.0	4.1	
41	搔 器	97SY-IS-A4-85	上II最下部上面	無斑品質安山岩	4.2	4.8	1.6	38.9	
42	石 刀	97SY-IS-A4-93	上II最下部上部	黒曜石	4.2	2.0	0.5	3.3	
43	石 刀	97SY-IS-A4-53	上II下部	黒曜石	3.4	1.1	0.5	1.3	
44	微細剥離底のある剥片	97SY-IR-H4-74	上II下部下部～上II最下部上部	無斑品質安山岩	6.8	2.4	1.1	16.1	
45	石 刀	97SY-IR-H4-79	上II下部下底	無斑品質安山岩	6.1	4.2	3.4	77.6	
46	石 刀	97SY-IS-A4-11	上II下部(下部)	黒曜石	1.8	2.1	1.3	4.7	
上II最下部・中部・下部									
47	石 刀	97SY-IR-H5-32	上II最下部下部	黒曜石	6.0	2.8	0.9	9.7	
48	石 刀	97SY-IS-A4-106	上II最下部中部	黒曜石	3.6	1.5	0.6	2.8	
49	石 刀	97SY-IS-A4-176	上II最下部中部	黒曜石	2.8	2.6	0.5	3.2	
50	石 刀	97SY-IR-H5-33	上II最下部下部	黒曜石	3.2	1.8	0.3	1.7	

表3 照月台遺跡の出土石器一覧2

51	微細剥離痕のある石刀	97SY-IR-H4-61	上II最下部中下部	黒曜石	2.7	1.9	0.5	2.0	!
黒色帯									
52	ナイフ形石器	97SY-IR-H5-22	黒色帯中部	チャート	2.4	0.9	0.3	0.6	
53	ナイフ形石器	97SY-IR-G5-45	黒色帯上部	チャート	2.2	1.5	0.5	1.7	
54	台形石器	97SY-IS-A4-7	黒色帯上面	玉髓	2.9	1.9	0.5	3.6	
55	匙 器	97SY-IR-G5-27	黒色帯	チャート	3.0	2.4	0.8	5.6	
56	匙 器	97SY-IR-H4-106	黒色帯中部	チャート	3.9	1.9	1.0	7.6	
57	局部磨製石斧	97SY-IR-G5-57	黒色帯上部	蛇紋岩	4.3	3.8	0.9	16.0	
58	剥 片	97SY-IS-A4-89	黒色帯上部	黒曜石	1.6	2.2	0.5	1.4	
59	石 核	97SY-IR-H4-160	黒色帯中部	チャート	3.2	2.6	1.8	11.7	
60	石 核	97SY-IR-H4-144	黒色帯下部	珪質頁岩	4.8	4.6	1.6	29.9	
61	石 核	97SY-IR-H4-143	黒色帯下部	チャート	4.1	4.5	2.9	63.8	
62	石 核	97SY-IR-G5-5	上II下部	チャート	5.9	4.5	1.6	47.3	接合
62	石 核	97SY-IR-G5-38	黒色帯中部	チャート					
63	敲 石	97SY-IR-G5-40	黒色帯下部	灰綠色巖灰岩	6.7	3.9	2.4	87.3	
上II下部									
64	台形石器	97SY-IO-B6-12	上II下部	黒曜石	3.5	2.6	0.7	4.9	
65	クサビ形石器	97SY-IO-A4-19	上II最下部下底	黒曜石	2.3	1.3	0.7	2.2	
66	微細剥離痕のある剥片	97SY-IO-A4-17	モヤ	黒曜石	3.1	1.4	0.4	1.7	
上II最下部									
67	台形石器	97SY-IO-A5-12	上II最下部	チャート	3.4	2.8	0.8	7.3	
68	擦 葵	97SY-IO-B6-29	上II下部	黒曜石	2.9	1.8	0.8	3.7	
69	微細剥離痕のある剥片	97SY-IO-A4-27	上II最下部中下部	玉髓	3.5	2.2	0.7	4.7	
70	削 刃 器	97SY-IO-A4-26	上II最下部	無斑島賀安山岩	6.1	2.4	0.8	12.1	
71	横長剥片	97SY-IO-A4-22	上II最下部上部	黒曜石	1.5	2.6	0.4	1.8	
72	横長剥片	97SY-IO-A5-30	上II最下部上部	黒曜石	1.2	2.4	0.4	1.1	
73	石 核	97SY-IO-B6-32	黒色帯下部	黒曜石	1.8	3.2	1.8	9.3	
74	石 核	97SY-IO-A4-18	上II最下部下底	黒曜石	3.6	3.1	1.2	10.0	
下層 黒色帯									
75	局部磨製石斧・剥片	97SY-IO-B6-11	黒色帯上部	蛇紋岩	3.4	2.9	0.7	6.6	
76	微細剥離痕のある剥片	97SY-IO-B6-33	黒色帯	黒曜石	2.8	2.2	0.4	2.5	
77	石 核	97SY-IO-A4-28	黒色帯上部	黒曜石	1.7	3.8	1.7	9.0	

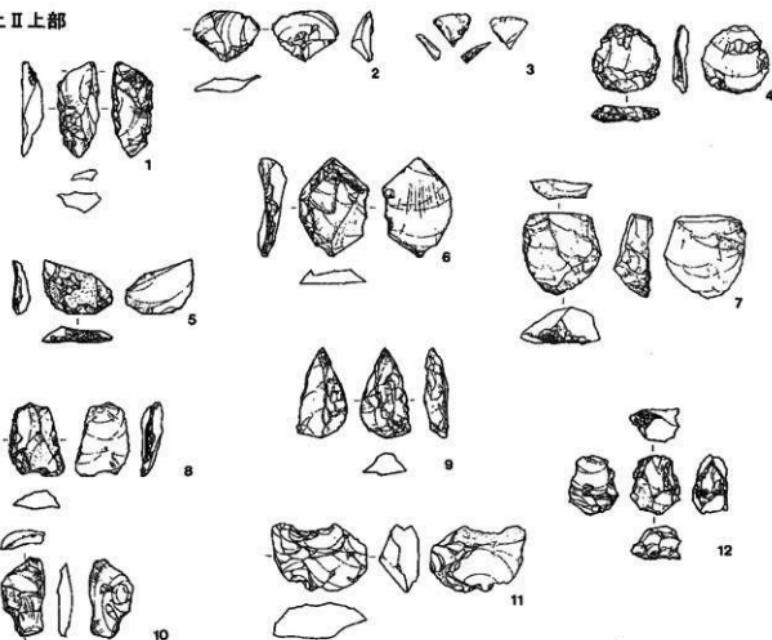
表4 照月台遺跡の出土品点数

単位: 点	
石器	576
礫	36
その他	2
合計	614

表5 照月台遺跡グリッド別出土品点数(店舗部分)

グリッド	石器	土器	礫	その他	合計
IN	H3 A4 A5 B5 B6 C6 F5 G4 G5 G6 H3 H4 H5 H6 H7	2 27 28 13 44 1 2 51 1 1 161 34 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 9 1 10 4 1 1 1		3 28 30 14 45 1 3 60 1 1 171 38 2 1 1 192 19 2 614
IO					
IR					
IS	A3 A4 A5 B5 合計	186 18 2 576	6 1 2 0	1 1 1 36 2	1 192 19 2 614

上 II 上部



上 II 最下部上部～上 II 下部

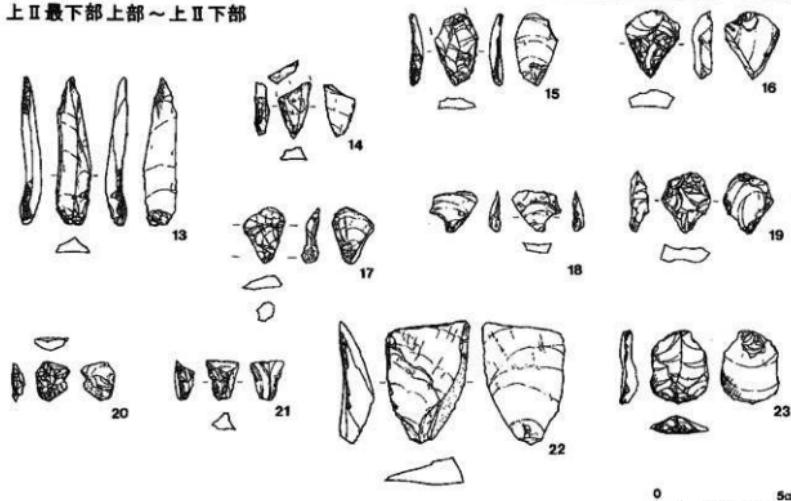


図10 黒月台遺跡の出土遺物 1

上Ⅱ最下部上部～上Ⅱ下部

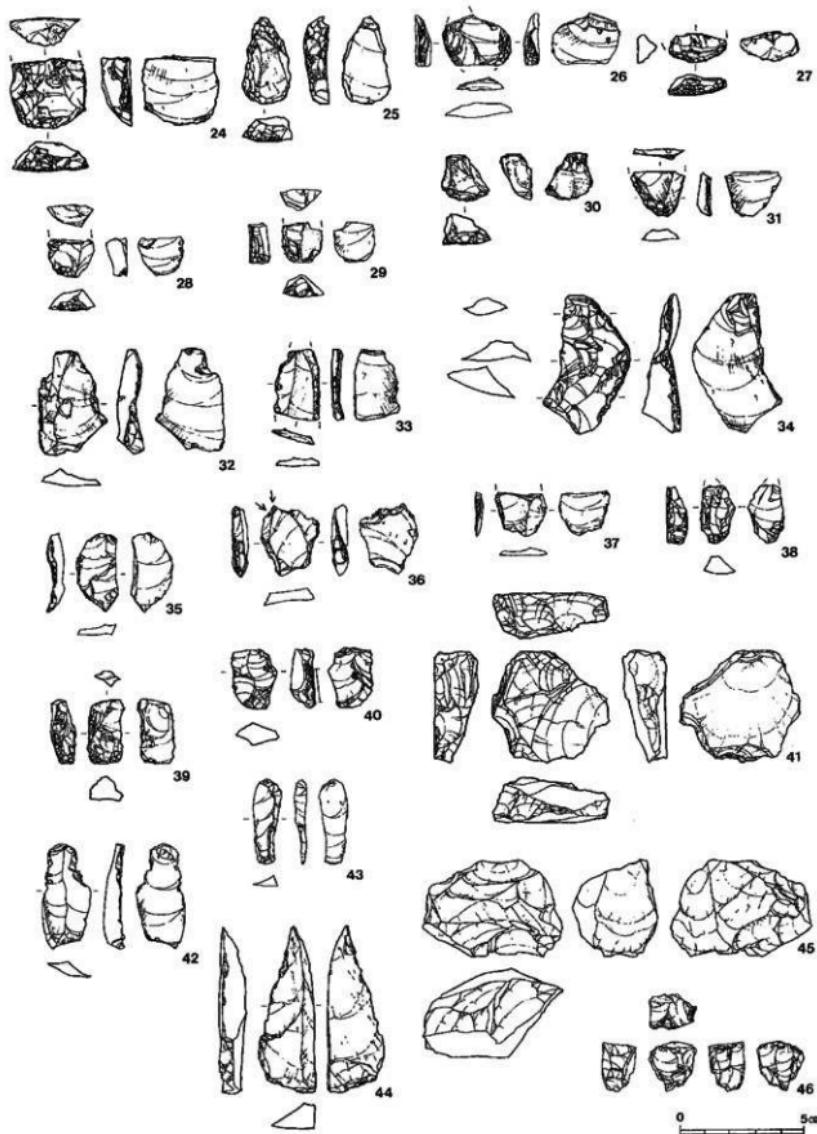


図11 黒月台遺跡の出土遺物 2

上Ⅱ最下部 中部 下部

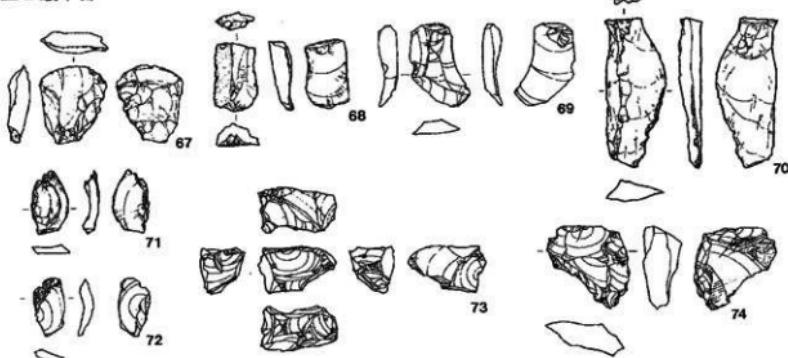


図12 照月台遺跡の出土遺物 3

上Ⅱ下部



上Ⅱ最下部



黒色帶

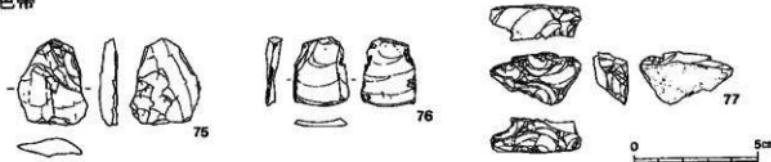


図13 照月台遺跡の出土遺物4 造成予定地（試掘調査地）

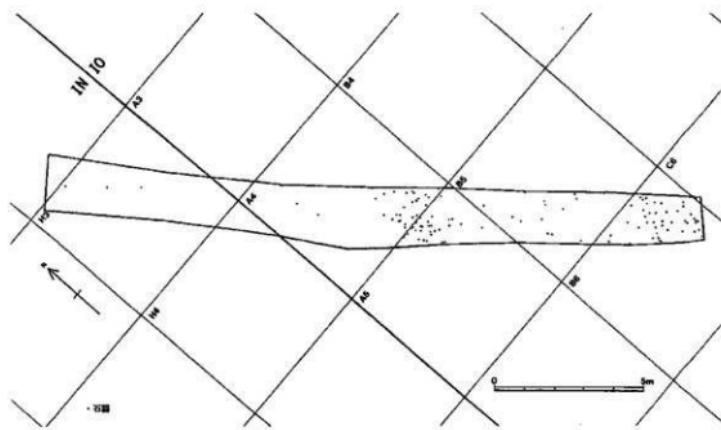


図14 造成予定地・試掘地の遺物分布

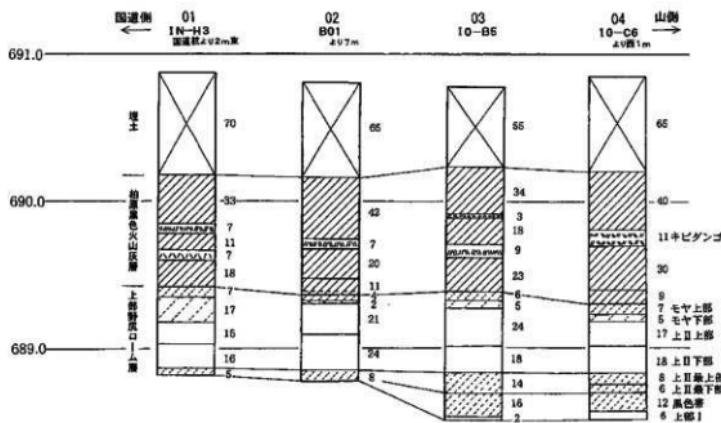


図15 造成予定地・試掘地の地質柱状図（単位cm）

図版1 照月台遺跡



1 照月台遺跡の発掘風景



2 埋土・表土を取り除き、発掘調査に着手



3 まわりの試掘を先行して調査を進める



4 遺物は国道側（西側）に集中していた

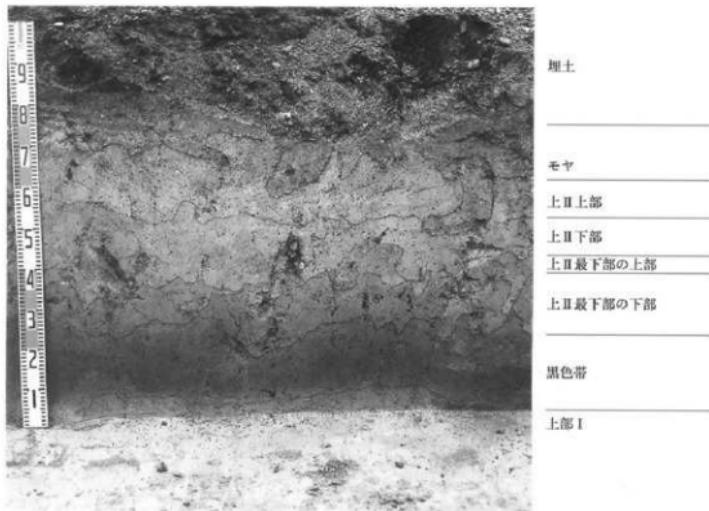


5 上層（上II上部～上II最下部）の発掘と記録作業

図版2 照月台遺跡



1 上層石器群（上Ⅱ下部～上Ⅱ最下部）の遺物の出土状況



2 照月台遺跡の地質層序

図版3 照月台遺跡



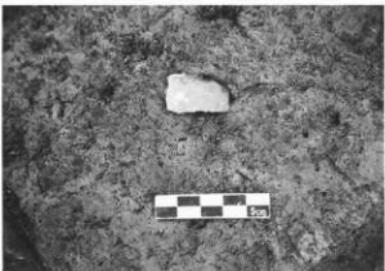
1 上層石器群（上Ⅱ下部～上Ⅱ最下部）の出土状況



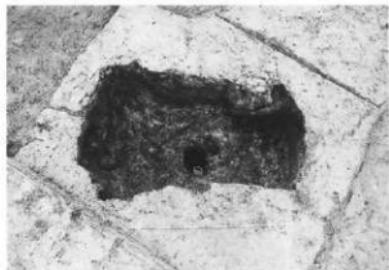
2 基部加工のナイフ形石器（上Ⅱ最下部）



3 台形石器の出土状況（黒色帶）



4 玉髓製の台形石器



5 1号土坑（落とし穴）



6 2号土坑（落とし穴）

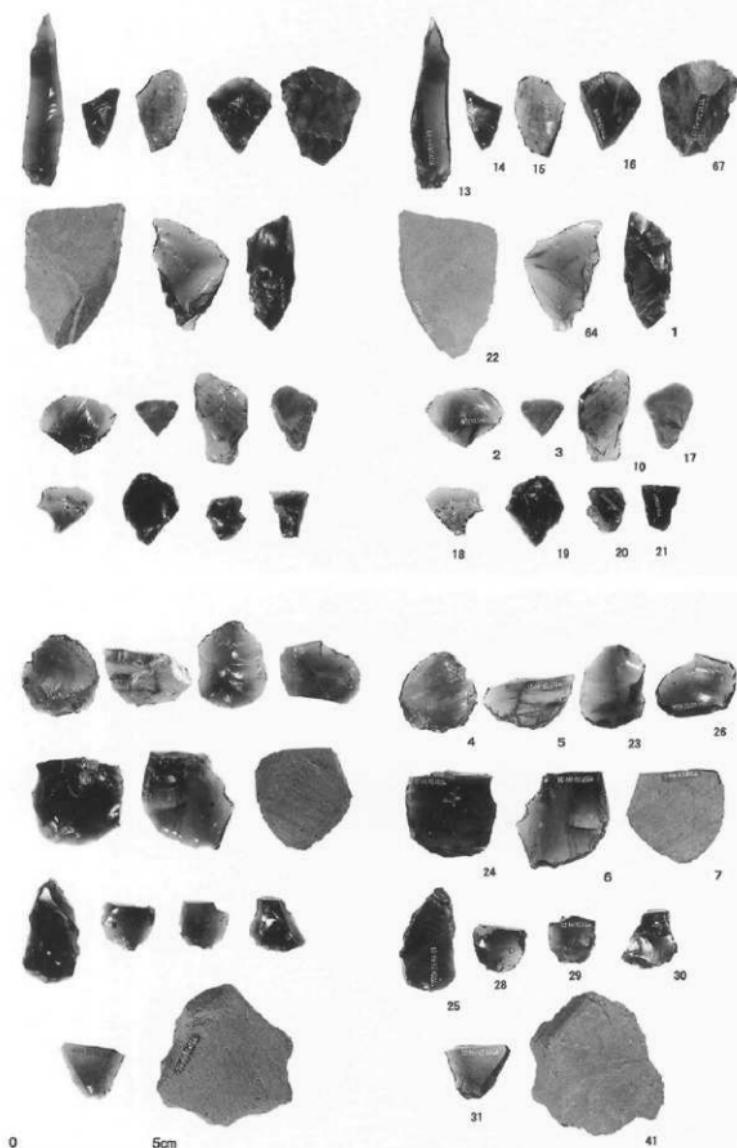


7 造成予定地の試掘調査



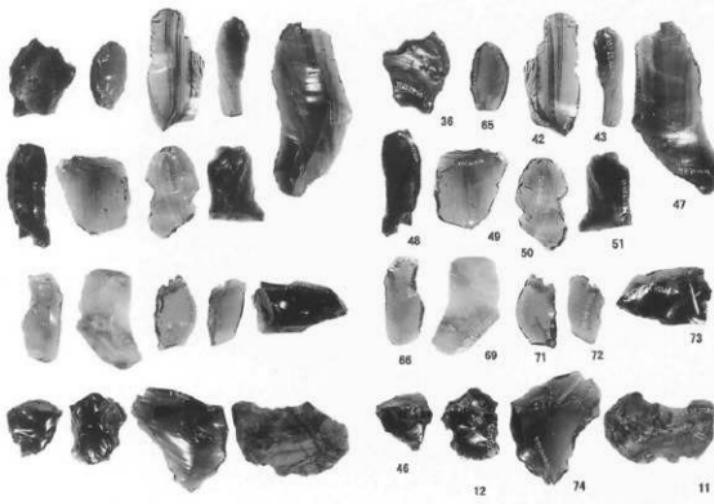
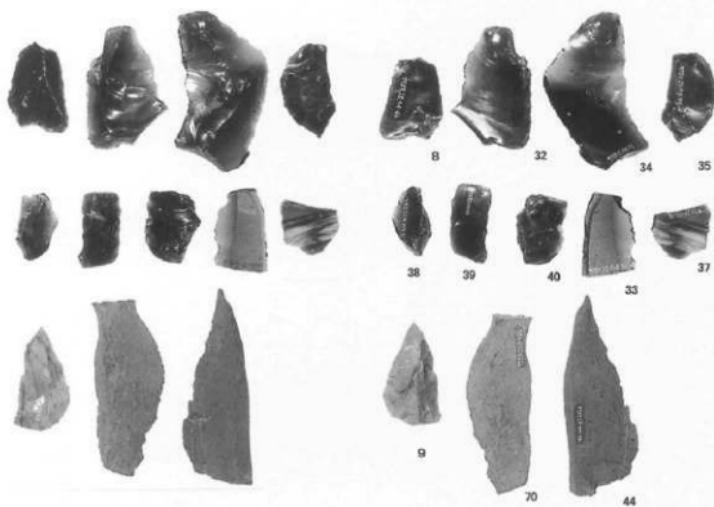
8 試掘調査 出土品は層準を壁面に投影している

図版4 照月台遺跡



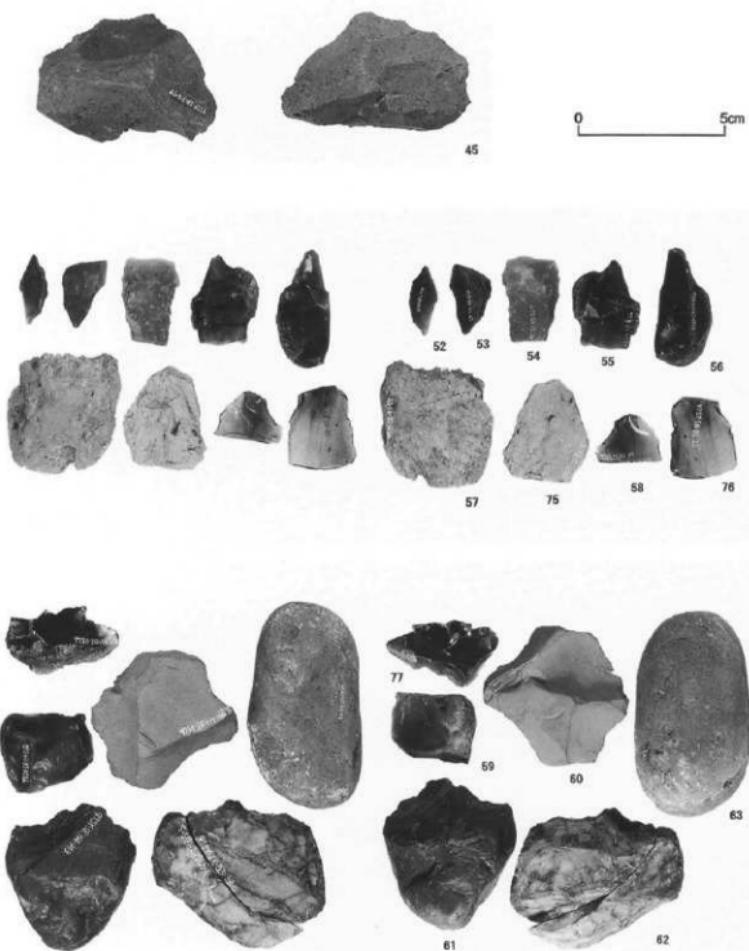
照月台遺跡の石器1 (上) ナイフ形石器・台形石器・貝殻状刃器、(下) 挿器

図版5 照月台遺跡



照月台遺跡の石器2 (上) 削器、(下) 形器・クサビ形石器・石刃・微細剥離痕のある剥片・石核

図版6 照月台遺跡



照月台遺跡の石器3 (上) 石核、(中) 黒色帶の石器；ナイフ形石器・台形石器・彫器・局部磨製石斧・剥片  
(下) 石核・敲石

## S U M M A R Y

The Syougetsudai site is located at Takizawa and Uenohara, Nojiri, Shinano-machi, in the northern end of Nagano prefecture, Central Japan. It is situated in lat.  $36^{\circ}49'37''$ N., long.  $138^{\circ}11'53''$ E., and is 691 meters above sea level. The excavation was carried out from November 7 to December 5 in 1997, by the Shinano Town Board of Education, prior to the construction of a store. The total excavation area is about 220 square meters.

The remains that totaled 757 were excavated from two cultural layers of the Upper Nojiri Loam Member (Pleistocene). There were 691 pieces of Palaeolithic stone tools, 40 pieces of gravel and so forth.

Most of the artifacts from the Syougetsudai site belong to the Palaeolithic Period.

Backed blades, trapeze, partially ground chipped stone axe and gravers were yielded from the lower layer of this site (the Black band of the Upper Nojiri Loam Member I). These stone tools belong to the early half of the late Palaeolithic Age, about 30,000~29,000 B.P.

Backed blade, trapezes, scrapers, graver, blade tools were yielded from the upper layer of this site (the lower most horizon of the Upper Nojiri Loam Member II). These stone tools belong to the early half of the late Palaeolithic Age, about 26,000~25,000 B.P.

報告書抄録

書名	照月台遺跡発掘調査報告書							
副書名	—後期旧石器時代前半期の遺跡—							
シリーズ名	信濃町の埋蔵文化財							
シリーズ番号								
編著者名	中村 由克							
編集機関	信濃町教育委員会							
所在地	389-1305 長野県上水内郡信濃町柏原428-2 TEL 026-255-5923							
発行年月日	2002年3月29日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東經	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号	○○○	○○○			
照月台遺跡	長野県上水内郡信濃町大字 野尻上ノ原	205834	46	36度 49分 37秒	138度 11分 53秒	971107 ～ 971205	220	商業店舗 建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
照月台遺跡	散布地	旧石器時代	土坑 (落とし穴) 2	総出土点数 ナイフ形石器、台形石器、貝 殻状刃器、振器、削器、彫器、 局部磨製石斧など	757点	後期旧石器時代前半期の2時 期の石器群が良好な状態で出 土した。		

(緯度・経度:世界測地系)

信濃町の埋蔵文化財

---

## 照月台遺跡発掘調査報告書

—後期旧石器時代前半期の遺跡—

編集発行 信濃町教育委員会  
長野県上水内郡信濃町柏原428-2

発行日 2002年3月29日

印刷 信毎書籍印刷株式会社

---

(この報告書についての連絡先)

野尻湖ナウマンゾウ博物館

〒389-1303 長野県上水内郡信濃町野尻287-5

TEL 026-258-2090

FAX 026-258-3551

Archaeological Reports of Shinano-machi

# Syougetsudai Site

Excavation of the Late Palaeolithic Site

2 0 0 2

Shinano-machi Board of Education,  
Kamiminochi-gun, Nagano, 389-1305 Japan.